

こども・若者と野田大臣との意見交換会

こどもの視点に立ったこども政策を進め、こども・若者から直接意見を聴くため、こども・若者と野田聖子こども政策担当大臣との意見交換会を開催しました。

日時：2022年1月12日（水）17:00～18:00

実施方法：現地参加とオンライン参加のハイブリッド形式

参加者：野田聖子こども政策担当大臣

こども・若者（小学校4年～大学3年生）23名

ファシリテーター、サポーター

- ・川瀬 信一氏 一般社団法人子どもの声からはじめよう代表理事
- ・櫻井 彩乃氏 Torch for Girls代表、#男女共同参画ってなんですか代表
- ・土肥 潤也氏 NPO法人わかものまちな事務所長
- ・中島 早苗氏 認定NPO法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパン代表理事
- ・広瀬 太智氏 認定NPO法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパン We Movement 事業部
- ・山口 有紗氏 子どもの虐待防止センター、小児科専門医、子どものこころ専門医

内閣官房こども家庭庁設置法案等準備室

1. 野田大臣のあいさつ

- ◆ 現在、こども政策の担当大臣をしている。今月17日から始まる国会で、こども家庭庁をつくるための法案を提出する予定であり、私が責任者である。
- ◆ 国会議員になってすぐのころから、こどものための組織をつくりたいという夢があった。そのために総裁選にチャレンジしてきた。今回、声が届けられ、岸田総理もこども家庭庁をつくろうと動いてくれている。
- ◆ 新しい役所の特徴は新しい日本をこどもと一緒にやってつくること。これまで大人が中心になっていた国の行政の中心を「こどもまんなか」にして、みんなを主役にすることで居心地の良い息苦しくない新しい日本をつくりたい。この役所の創設についての責任者になれてうれしく思っている。
- ◆ 今までは、こどものためと言っても、こどもの意見を聴かずに、親だから、先生だからと言って、大人の立場で、こどもがこう思っているだろうという思い込みでやってきたことが、実際には違ったりもした。これからは、こどもたちがそれぞれの個性の中でどう生きていきたいか、直接言える場をこども家庭庁で作っていきたい。

2. こども・若者からの意見・質問など①

- こども自身がこどもの権利を知って声を挙げていいと知ることが大切だと思う。こどもの権利に関するビデオを作成したり、小学校の指導要領にこどもの権利について組み込んだり、小さいうちからこどもの権利について学ぶことができる機会を増やしてほしい。
- 特別支援学級に通っているが、普通学級にいる友達との交流が減り寂しい。学校で障害を持つこどもと関わる時間をもっと増やしてほしい。そうすれば、小さいうちから障害への理解を得られるようになると思う。なぜ役所の名前をこども家庭庁にしたのか教えてほしい。
- 私は苦手なことと得意なことの差が激しい。得意な教科の授業は簡単すぎ、すでに授業内容を理解しているにもかかわらず、授業を受けなくてはいけない学校生活に息苦しさを感じることもある。学校での学習内容をこどもが特性や能力に応じて選択できるようにしてほしい。
- 私は小さいころからプレーパークという遊び場で遊んでいる。プレーパークは大人もこどもも関係なく、みんな友達になることができ、自然と触れ合うことができるとても楽しい。プレーパークのような居場所はどんな人にも必要だと思うのでもっと増やしてほしい。

2. こども・若者からの意見・質問など②

- 私は学校には通っておらず、フリースクールに通っている。成績がつかず、受験できる学校が限られてくるので、学校に行かなくても学校のドリルや市販のドリルをやったら学校の成績が少しでもつくようにしてほしい。フリースクールにお金の補助をしてくれたら、フリースクールに通っている人も色々な学びができると思う。
- 私は現在、フリースクールに通っており、公立の学校には通っていないが、フリースクールと公立の学校、両方にお金を払わないといけない。公立の学校にお金を払わないでいいようにしてほしい。また、フリースクールにお金の補助をしてほしい。
- こども・若者が多くの時間を過ごす幼稚園・保育園・学校などでは、いつも男女で区別されており、ジェンダー規範までも無意識のうちに学んでしまっている。それは将来の選択を狭めることにも繋がりがねないので、こども・若者へのジェンダー平等教育、保育士や教員、それらの資格を将来取得する学生にもジェンダーに関する教育・研修をしてほしい。また、こども・若者から声を聴くだけでなく、意思決定の場にもこども若者を入れてもらえるとう嬉しい。
- 私は高校生のときに予定外の妊娠と中絶を経験した。望まない妊娠を避けるための教育をするとともにユースクリニックで心と身体について相談できる場所を確保してほしい。また、必要なときに正しい情報を得られるようメディアリテラシー教育を充実してほしい。

2. こども・若者からの意見・質問など③

- 発達障害を持つこどもの半数以上が虐待を受けている。育てにくさから追い詰められる親も、虐待される子も苦しい。私の発達特性のため、親は私を、私も親を愛しているのに大切にする方法がわからず苦しかった。適切な第三者が介入し、家族の再統合のための援助や、日常の親子の摩擦を癒すためのリトリートケアやレスパイトケアを充実してほしい。そのために予算をつけて必要な人材を育成してほしい。
- 私は中学・高校などを訪問して、悩みを相談したり、人生の話をしたりするピアサポート活動をしている。基本方針に書かれているとおり、「こどもと近い目線・価値観で対応することができる「お兄さん」「お姉さん」的な支援者による支援を進める」、「学校や家庭以外の居場所づくりに取り組む」ことは非常に大切であり、当たり前前にピアサポート活動が実施される社会を実現していきたい。学生だけでは限界もあるので、行政や地域の人に活動を支えてもらえたら嬉しい。
- 私は児童養護施設に住んでいる。児童養護施設にいるこどもは両親からの経済的支援がなく、バイト代から携帯代を払ったり、自立の準備に必要なお金も自分で準備しなければならない。児童養護施設にいるこどもへの経済的な支援をしてほしい。また、児童養護職員とこどもの関わり方を改善してほしい。施設の職員は、仕事が忙しくてこどもとの時間をなかなか取れない。もっとこどもに寄り添って分かってくれる職員がいてくれたらと思う。

3. こども・若者からの意見を受けて 野田大臣からのコメント

- ◆ みんなの話を聞いて一人として同じ人はいない、みんな違うということを改めて実感した。そして、それがこども家庭庁をつくる時の前提であると思った。今日の意見交換会はこども家庭庁ができた際の予行練習だと思っている。こども家庭庁ができたとき、すぐにはできないかもしれないが、こういった形の間をもうけたいと思っている。
- ◆ 私は発達障害者支援法づくりに関わった。当時は発達障害という概念がなく、しつけがなっていない子、変な子とされていた。法律ができてからはセンターができたりした。私もこども時代は変わっていて、浮いていたことがあった。つらいと思えば永遠につらい。心の持ち方、考え方ひとつで違って来る。みんな違うということが前提で違いを辛いと思わない社会にしたい。
- ◆ 「こども家庭庁」という名称について質問があった。家庭でつらい思いをした人にとって、家庭は嫌だという意見もあるが、「こども家庭庁の方がいい」という意見もあり、より多くの人に応援してもらうために「こども家庭庁」になった。家庭が良いか悪いかは人それぞれだが、仮に最初の家庭が悪かったら、次の居場所をつくっていくことが政府の役割だと考えている。
- ◆ 本日はありがとう。あっという間で、もっともっとみんなと色々な話をしたかった。みなさんから新しいアイデアや考え方を教えてもらってとても嬉しく思う。しっかり実現していけるように頑張りたい。

4. 今後について

こども家庭庁を令和5年度（2023年度）に作ることを目指しています。

今回の意見交換会でいただいた意見をしっかり受け止め、こども家庭庁づくりに役立てていきます。こどもや若者のみなさんと一緒になって考えていくことを大事にする、そんなこども家庭庁にしていきたいと思えます。